

審美ブラケットの最大の魅力は「色」！ これが欠かせない条件です。

澤端喜明先生
Dr. Yoshiaki Sawabata
さわはた矯正歯科医院 院長
●富山県富山市

患者さんの視線、患者さんの立場での治療を何より大切にしていることで定評のある澤端先生。「審美ブラケットと呼ぶからには、歯と同じ色、同じ透明感であることが欠かせません」と話します。審美性が患者さんにとって、どれだけ重要か。そのニーズに矯正医が応えることが、なぜ必要か。先生の考えを聞かせていただきました。

歯と同じ色と透明感 だから自然なんです

私が審美ブラケットにもっとも求めているのは「色」です。エナメル質に近い透明感は、セラミックでないと再現できません。セラミックブラケットの中には「白さ」を強調しているものがありますが、それだと白すぎて、歯にブラケットが「ついていない」感じがしてしまいます。InVuは歯と同じ色、同じ透明感だから、歯と一体になる。今までのセラミックブラケットの中で一番いい色をしています。審美ブラケットと呼ぶからには、これは欠かせない条件ですね。ブラケットをつけた模型を見せると、みなさん「これがいい」と

InVuを指します。そして実際に歯につけると、一層、自然に見えるので、みなさん、さらに感動されますよ。

「これならつけてもいい」と 言って決断されます

術者はブラケットに機能性を求めますが、患者さんが求めるのは審美です。つまり審美ブラケットを希望する患者さんは、色を追求しているとも言えるでしょう。矯正治療に踏み切るかどうかの患者さんの基準には、いろいろな優先順位があると思いますが、審美性の順位は本当に高いと感じますね。「この色だったらつけてもいいな」と言って決断する方もいらっしゃいますから、多くの方が銀色のブラケットの



いたいで、私は治療経過をマンスリーで写真撮影し、前月の診察時からの変化を患者さんに見せています。言葉で説明するより、写真を見るのが一番早いからです。患者さんは、歯が動いている実感はあっても、1カ月前がどうだったかまで覚えていられません。そこで「こんなに良くなっていますよ」と写真を見せると、「うわあ！」とダイナミックな変化に感動します。審美性への満足感だけではない、毎月大きく表れる結果があるから、患者さんは納得されるのです。

矯正治療期間中を、ずっと高いモチベーションでいてもらうためにも、治療の途中途中で喜んでもらえるようにしたいですね。私にとって最高のうれしいことは、何といても患者さんの喜びの笑顔なのです。

**患者さんの価値観に
できる限り
応えたいですね。**



●受付秘書
川野真由佳さん
(写真左)
●衛生士
井上 瞳さん
(写真右)

**患者さんが、自然な色の
ブラケットを
求める気持ち
がよくわかります。**

さわはた矯正歯科医院に勤めるようになって、矯正治療をされた2人のスタッフにお話を伺いました。

川野 私たちは患者さんと接しているの、歯ならびが悪いのでは印象が良くないと思い、矯正治療を受けました。

井上 2人ともメタルブラケットで治療したんですが、写真を撮ると口元がものすごく光ることが嫌でしたね。患者さんにも「友達がきれいなブラケットだから、私も替えたい。銀色は恥ずかしい」と言う方がいました。InVuのような自然な色のブラケットを求める気持ち、よくわかりますね。

川野 今だったら私も間違いなくInVuを選びますね。費用が多少高くなっても、治療期間中を快適に過ごしたいという考えに賛成です。

井上 当院では矯正装置が外れたあと、「スマイルトレーニング」を行います。「笑うこと」と「歯を見せること」の良さを伝え、自然な笑い方をお教えます。実はメタルブラケットの患者さんは、治療期間中、笑う機会が少なくなる傾向があります。目立つから口元を隠したくなる。そして装置が外れても、結局、癖で口元を隠してしまいます。だからトレーニングでも、その癖をとるのが大変です。でもInVuをつけていた方たちは、治療期間中もずっと笑顔で過ごされるので、すぐに素敵なスマイルのコツをつかんでくださいます。

川野 最初は性格が控えめだった方が、ニコニコしてお見えになると、治療されて良かったなと思いますね。歯ならびがよくなるにつれて、きれいにメイクされたり、服装がおしゃれになったり。コンプレックスが一つなくなっただけで、こんなに自信が持てるようになった方を見ると、私たちもうれしくなります。